

第2回武田薬品工業湘南研究所の環境保全に関する連絡会について報告

1. 日時 平成23年11月19日(土) 10:00～11:50
2. 場所 武田薬品工業湘南研究所 会議室
3. 出席者 植木町内会、鎌倉ロジュマン、鎌倉岡本ガーデンホームズ、四季の杜自治会、ラシェール鎌倉岡本ハイレイズ、レックスガーデン鎌倉岡本、鎌倉グランマークス：(10名出席)(5名欠席)
武田薬品工業湘南研究所：(6名出席)
鎌倉市(環境保全課)：(2名出席)

4. 内容

鎌倉市環境保全課長、武田薬品工業株式会社野村プロジェクトリーダーの挨拶、各委員の自己紹介の後に、別紙次第に従って連絡会が開催されました。主な内容は次のとおりです。

(1) 連絡会の運営について

ア 連絡会の議事録の公開について

第1回の連絡会で確認したとおり、議事録については、事務局で概要をまとめて各委員に内容の確認した後に市のホームページで公開することを再度確認しました。

イ 連絡会の傍聴について

前回の連絡会でも説明したとおり、市では、条例等に従い市が設置した審議会等については、傍聴を可としている。この連絡会については、市が単独で設置したものではなく、市、市民、武田薬品が関わっている会議であるため、その可否については、運営要領に基づき委員の皆様の意見を聞きたいと説明し、事前に、傍聴の順守事項、前回の連絡会における委員意見の紹介を行いました。

主な質疑内容

住民：この場合は、賛成、反対で決めていくようなものではない。住民からの信頼を得るためにもデメリットがなければ公開するべきと思う。ただ、武田薬品もリスクコミュニケーションの努力はしているようであり、非公開の意見が多ければ、どうしても傍聴を認めるべきと主張するつもりはない。

住民：この連絡会は、行政機関のように何か方針を決めることを主眼にするものではない。

連絡会の委員は、住民を代表してきており、結果を住民に伝えていくわけだから傍聴の必要はない。

市が議事録を公開し、武田薬品も住民の問題と認識するものについては対応することになっている。

また、建設時に反対派の人が集会を開いていた時の怖い印象もあり、個別にポスティング等をされても困る。

住民：傍聴を認める必要はないと考える。理由として、連絡会そのものが、三者によるものであり、行政だけのものとは立場が違いうし、自由闊達な意見交換を阻害する恐れがあり、無断で録音する危険性もある。

武田：自由、闊達な意見交換の場という目的を考えると、傍聴者がいないほうがよいのではないか。

住民：傍聴を希望されているのは、地元の方なのか。

市：連絡会の対象地区以外の方からも来ている。広く意見を聞くべきとの話も来ている。

住民：傍聴を認める必要はない。議事録の公開で十分である。

市：これまでの意見から、連絡会の傍聴は認めない方向で行きたいと考えるがいかがでしょうか。

一同：了承。

市：ただ、今後、様々な課題が取り上げられる可能性があり、課題によっては要望が出てくるとも考えられる。その時は、事前に傍聴について諮る場合があることは承知おきいただきたい。

一同：了解。

武田：個別に説明してほしいというような要望があれば、こちらから説明をさせていただきますこともある。

（２）武田薬品工業株式会社からの報告について

武田薬品から近況報告（移転状況・ボランティア清掃）、環境関係（モニターアンケート報告・環境測定（報告様式他）・自主測定結果報告）、共同研究ラボの概要、危険物倉庫について、説明を行った。

特記事項は次のとおり。

・移転状況

10月末に移転が完了しフル稼働に入った。研究者が1200人、スタッフ600人の計1800人が従事している。

・環境モニターアンケートの報告

10月29日にモニターの方にアンケートの結果を報告し、今後も気が付いたことは適宜報告等をしてほしいと話をした。

・自主測定結果について

亜鉛の測定結果が一時管理基準を超過した時期もあったが、現在は、管理目標以下の安定した値になっている。

・共同研究ラボ

共同研究ラボは、研究所施設の一部を活用して、国内外の優秀な人材と創薬に関する共同研究を行うものである。

武田薬品の研究室の人間と一緒に研究し、環境安全対策については、国内法令、環境保全協定、研究所のルールを遵守することを前提とし、武田薬品が責任を持って指導管理していくものです。

・危険物倉庫について

危険物倉庫は管理区域になるので、内部を見せることは難しい。

今日時間があれば、外部から見学してもらいたい。

主な質疑は次のとおり。

住民：鎌倉に最大 15 メートルの津波が来るとの報道があったが、研究所としてその対策をどのように考えているのか。

また、昨今、動物実験から iPS 細胞の利用に代わってきている。今後、iPS 細胞の取扱いに危険性はないのか。

武田：津波については、アボイドマップに基づき、柏尾川から数メートルの津波が上がってきたことを想定し、盛り土を、メインのところは 2 m 高くしている。実験エリアは、20 m 弱の高さがあるので、心配はないと考えている。また燃料タンクも 10 m 強の高さに設置しているので、対応の必要はないと考えている。ただ、津波浸水想定の見直しが示されたため、今後対応は考えていきたい。

iPS 細胞も薬物の評価に使用したいと考えている。細胞なので逃げ出すことはなく、使用後も滅菌処理をして対応する。外に流れて環境に影響を及ぼすことはない。

住民：敷地内のテニスコート脇の工事は何をしているのか。

武田：既存の倉庫を整備している。12 月中には終了する予定です。

住民：前回の連絡会で話が出たが、騒音について、音源を突き止めることになっていたが、その後どのようなになっているのか。

市：最初に鎌倉市に苦情が寄せられたため、鎌倉市が窓口になっている。今まで、セミの声、虫の声、冷房の室外機音などの影響を受けない時期を待っていた。住民の方からの話によれば、風向により音が聞こえたり聞こえなかったりするため、確認できた時に連絡をいただくことになっている。

住民：低周波音かもしれないし、苦情への対応は早くしてほしい。

武田：音源の特定を試みたが、住民の方も確認できなかった。音を確認して対応したい。

市：住民の方からの連絡を待って、迅速に対応したい。

住民：迅速な対応をお願いしたい。

共同研究ラボについて、計画があるならば、連絡会等に早く知らせてほしい。

武田：ラボの内容や相手など何も決まっていなかったため、報告していなかった。決まった段階で報告したい。

市：共同研究について、武田の管理のもとに共同で研究を行うと言っていたが、研究の中に武田の社員が入ることなのか。

武田：まだ、詳細な内容が決まっていない。研究の管理は武田が行う。したがって、武田の規則・ルール・協定は守ってもらうことになる。

市：連絡会に情報を提供してほしい。

武田：決まり次第情報は提供するようにしたい。

住民：共同研究は他の研究所でも行っていたのではないか。

武田：行っていた。今までは施設が狭かったため、一部の施設でしか実施していなかった。

住民：モニターの方については、敷地から 300m 以内等近隣の方を優先する等

の工夫をしてほしい。

武田：そうなるように考えている。

5. その他

次回の連絡会の開催時期について、市として年度内に開催を考えていたが、武田薬品からは、環境調査等の結果がまとまるのが5月頃との報告を受けているので、意見を聞きたい。

住民：課題があれば適宜開催することになっているので、5月の予定でよいのではないか。

市：特に課題がなければ、新年度の5月過ぎくらいの開催でよいでしょうか。

一同：了解した。

なお、施設見学は悪天候のために次回以降に延期することになりました。